

Vascular

現場の声に耳を傾けて開発された Trinias series with SCORE Operaが 臨床をアップデートする



芹川 威 先生

池友会 福岡和白病院 循環器内科

芹川 威, 野口 博生, 仲村 圭太, 伊元 裕樹, 河原 正明, 児玉 浩幸, 梶山 渉太,
天野 寛世, 柚木 宏斗, 有田 武史

1. はじめに

福岡和白病院 (Fig.1) は福岡県福岡市の中心街から車で30分ほどの住宅地に位置し、同地区の急性期医療の要となっている。33の診療科を標榜し、369床 (内 ICU18床, HCU16床, 回復期26床) が稼働しており、2023年実績で延べ15万8,418人の外来患者数、12万5,269件の入院患者に対する診療を行っている他、6,705件の救急車受け入れに対応し、手術件数4,000件を数える。



Fig.1 福岡和白病院外観

当循環器内科は、虚血性心臓病、弁膜症、不整脈、末梢血管疾患 (静脈瘤含む)、心不全などを幅広く診療しており、診断には320列心臓CT、心臓MRI、シンチ、経食道心エコー、運動負荷エコーを駆使し、治療はPCI (経皮的冠動脈形成術)、TAVI (経皮的大動脈弁置換術)、EVT (血管内末梢血管治療)、下肢静脈瘤レーザー治療、カテーテルアブレーション、ペースメーカー治療 (植え込み型除細動器・両心室ペースメーカー含む)、経皮的左心耳閉鎖術治療、心原性ショックに対するインペラ (補助人工心臓) など幅広く対応可能な体制を構築している。

今回、関連病院の血管撮影システム整備に合わせ、

当院の血管撮影システムの更新を行った。本稿では、新たに導入した島津製作所の最新バイブレーション血管撮影システム Trinias B8s with SCORE Opera (Fig.2) に搭載されたオリジナリティーある操作性を実現したインターフェイスやAIフィルタを用いた最新画像処理SCORE Operaについて述べたい。

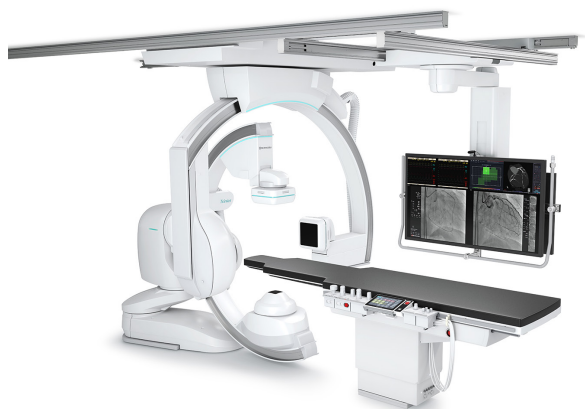


Fig.2 導入された Trinias B8s with SCORE Opera

2. 導入要件と合致したシステム操作性の向上

当院では4室のカテーテル室があるが、今回冠動脈インターベンション専用としている1室を更新した。更新前のシステムも一世代前のTriniasシリーズ (2017年導入) であり、既に低被ばくと高画質を両立した画像処理エンジンを搭載しており、複雑病変に対するPCIなどでもその性能を十分に活かしていた。今回新しく導入されたTrinias series with SCORE Operaは術者の操作環境が刷新され、前述のAI画像フィルタも加わり更なる進化を遂げている。